

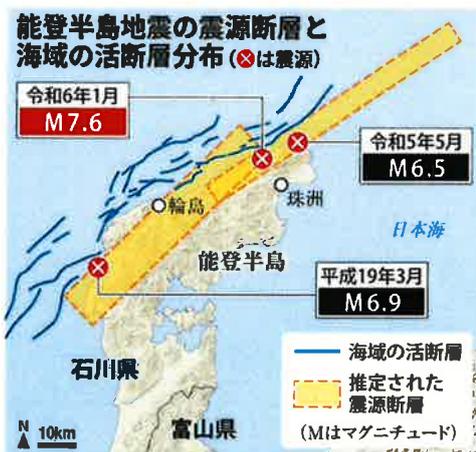
能登半島地震の悲惨は「人災だ！」

崩壊した道路も底冷えの避難所も
水も食料も暖房も情報もない！

これらは、国政・県政の結果である

2007年の能登半島地震以降、緊急課題であった能登地方のインフラ・避難所整備、福祉・介護施設などの耐震化をなおざりにして、「観光立県」に予算を集中させてきた結果、あの悲惨な状況がつけられたのです。

しかも、国の指針改定にあわせて津波対策は改定されたのですが、肝心の地震対策を石川県は、四半世紀、放置してきたのです。これは、北陸電力、志賀原発をおもんぱかった措置と言わざるを得ません。



※地震調査委員会の資料を基に作成。地形は国土地理院による「断層だらけ」の

能登半島にある志賀原発

志賀原発、外部電源が一部喪失

一方、志賀原発の外部電源が一部喪失した重大事は隠ぺいされ、「安全は保たれている」としか報道されませんでした。石川県災害対策本部では議題にすらせず、職員への周知もされてはいません。北陸電力の隠ぺいに手を貸したとしか言いようがありません。



能登半島地震では、志賀原発原子炉建屋地下二階で5弱、399ガルを計測し、その揺れで「トランス及び接続配管」などが破損して大量の油が漏れ出たのは周知の事実です。このことは、志賀原発は1000ガルに耐えるなどと言ってきたことがたんなる画餅でしかなかったことが証明したのです。



北陸電力は、志賀原発内の惨状を誤魔化するために、様々な事故の形跡を消しさり、2カ月半もたつてようやくマスコミに公開しましたが、「カメラ制限」は著しく、公開の名に値しないものでした。きっと、見せたくないものが一杯あったのでしょう。

特に、原子炉地下のS系断層が、その上にある原子力施設（配管や接続部分）に影響を与えたのではないかという疑念を払拭しきれません。

やはり、志賀原発は廃炉！ しかない